

はままつじょうはっくつうしん 浜松城発掘通信

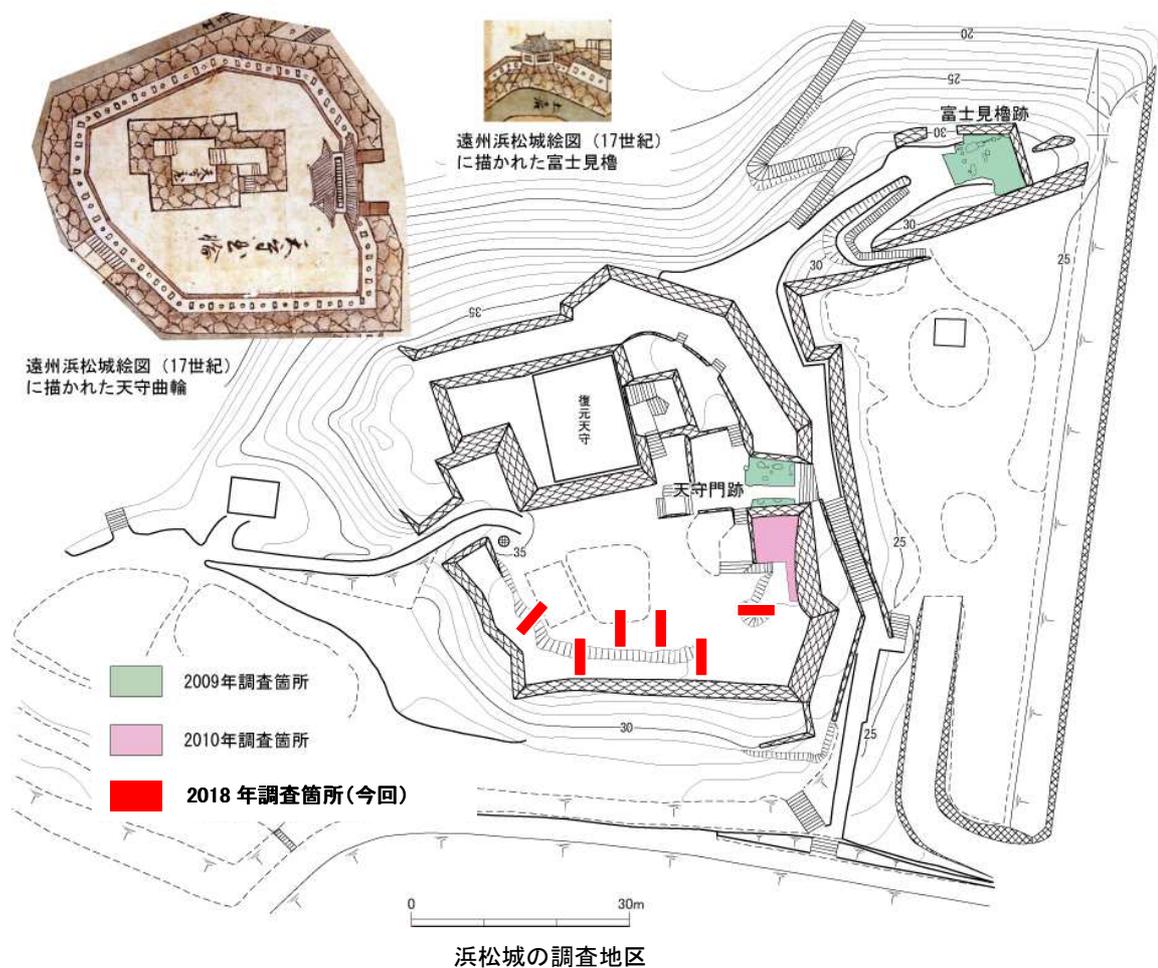
Nº1

浜松市文化財課（浜松市地域遺産センター）

2018年1月9日

今年も浜松城跡の発掘調査を進めます。

浜松市文化財課では、2018年1月9日（火）から浜松市元城町にある浜松城跡の発掘調査を開始します。今回の調査は、天守曲輪（くるわ）の土塀を対象とします。土塀の内側には石垣があり、その上には土塀（どべい）があったことが、江戸時代に描かれた絵図から読み取れます。これらの建造物の痕跡が発掘調査で確認できるかが、大きな課題です。



天守曲輪とその周辺では、天守門跡（てんしゅもんあと）や富士見櫓跡（ふじみやぐらあと）の調査を進めてまいりました。今年（2018年）の調査は、天守曲輪南側土塀の構造解明を目指します。

今までの調査成果を紹介します。

これまでの発掘調査では、天守門跡（てんしゅもんあと）や富士見櫓跡（ふじみやぐらあと）の2箇所を対象としました。双方ともに建物の基礎である礎石（そせき）が確認でき、かつてあった建物の規模が推定できるようになりました。



■ 天守門跡の礎石

安土桃山時代（約420年前）の天守門に使用されていたとみられる礎石を確認しました。礎石は抜き取り穴を含めて6箇所分が確認でき、門の下部構造がほぼ確定できました。



■ 富士見櫓跡の礎石

富士見櫓では、3石分の礎石が確認できました。礎石の間の距離は約2mであり、建物に京間（6尺5寸=197cm）が用いられていたことが分かりました。富士見櫓は通常の土蔵造りではなく、御殿風の建物であったと推定できます。

公開発掘のお知らせ

浜松城跡の発掘調査は、休日の一部（下記日程）も実施します。作業中の見学者には、調査状況を解説いたします。

【休日調査日】

1月20日（土）、1月27日（土）、

2月3日（土）、2月4日（日）

雨天の場合は中止します。

【作業時間】 午前9時～午後4時

